

## スカイプ経由というのは誤り、正解はゲストオペ

JJ1SXA/池

私のリモートシャックを利用する場合、「JJ1SXAのスカイプ経由」と呼称しているが、これは正式の呼称ではありません、以前からHPや240誌でも説明していますが、要はゲストオペ制度やリモートシャックを正確に理解していないということだと思います、再度、ゲストオペ制度やリモートシャックについての説明です。

ゲストオペ…無線の資格はあるが開局申請をしていないとか、再免申請を忘れて免許切れになった等で、有効な自分のコールサインが無い場合、そのまま運用すれば電波法違反ですが、有効な免許を持つクラブ局のメンバーになって運用するか、有効なコールサインを持つ局のゲストオペとして運用すれば、電波法違反に問われることはありません、勿論有効なコールサインを持つ局でもゲストオペ運用は許可されています、1997年2月24日付けで改正された、電波法施行規則第5条の2に基づき、アマチュア局の開設の有無にかかわらず、無線従事者の資格を持っていれば、他のアマチュア局を訪問してゲスト運用することができるようになっていて、次のことが条件です。

- 1、ゲストは、自分の資格の範囲内で、かつ、訪問先のアマチュア局の免許の範囲で運用できる
- 2、ゲスト運用は、訪問先の局の免許人(社団局の場合は代表者または構成員)が全ての責任をもって実施するもので、必ず訪問先の免許人の立会いのもとで運用のこと
- 3、ゲストが使用するコールサインは、訪問先で運用する局のコールサインを使用しておこなうこと、そのコールサインの後には、社団局の場合と同様に、ゲストのコールサインまたは従事者免許しか持っていないアマチュアは名前を適宜送出して、ゲスト運用であることが相手局にわかるようにすること

リモートシャック…1998年5月20日に、フォーンパッチが許可されると共に、電波法関係審査基準の一部が改正され、2004年1月13日施行で「インターネットを利用した遠隔操作」の条件等が加えられリモートシャックがOK となったのです。

システムの概要は、無線機とPCをRS-232Cケーブルでつなぎ、ソフトによりPCで無線機の操作ができるようにし、更に遠隔地にあるPCで、このPCをインターネットを介しリモートコントロールして無線機の操作ができるようにし、音声のやりとりはスカイプを利用しているというのがリモートシャックです、スカイプは、リモートシャックの一部の機能を担っているだけということを理解してください、現在、周波数は50.240MHz固定ということで遠隔地PCでのリモートコントロールを省略しています、利用する局がソフトの導入を要するので手数がかかるためですが、これがスカイプ経由という誤解につながっているのでしょうか、ちなみに私は、リモートコントロールして、直近に並べてあるが遠隔地のPC(笑)に当たる方で無線機を操作していますのでリモートシャック運用です。

JJ1SXAの無線設備は、局免変更申請で、「インターネットを利用した遠隔操作」、い

いわゆるリモートシャックが免許されています、ということで、遠隔地からインターネットの利用で運用できますし、ゲストオペもリモートシャックを運用できることは当然です。

元々は、自身遠方へ旅行に出かけた時、240でGWでのQSOができない時のために免許を受けたのですが、実際に使う機会がありません、現在は、240グループのメンバーが遠隔地から、240のロールコールのチェックイン用として利用頂いているのがメインの利用状況です、その場合は、「JJ1SXAのリモートシャックのゲストオペ運用」です、スカイプをつないでのQSOは、あくまでもJJ1SXAのゲストオペでの運用だという原則を知ってもらいたいと思います、利用局のコールサインの正式呼称ですが、現在は、「JJ1SXAのスカイプ経由」と称していますが、正式には「JJ1SXAのリモートシャック・ゲストオペ・自局コールサイン」です、JR2CTR局の場合は、「JJ1SXAのリモートシャック・ゲストオペ・JR2CTR」となりますし、JA1VWB局がW6からの場合は、「JJ1SXAのリモートシャック・ゲストオペW6/JA1VWB」です、あくまでも「ゲストオペ」であることを認識してください(W6/は自局コールサインの前です)、「スカイプ経由」では無く、せめて「JJ1SXAゲストオペ・自局コールサイン」の方が良い。

VoIP無線関係でTWO-FORTY誌に色々書いています、eQSOについては、第56号(2003.07)、WIRES-IIについては、第57号(2003.12)に「ルーター設定奮戦記」として、遠隔操作については、第58号(2004.03)に「インターネットを利用した遠隔操作」についてとして、WSJT(JT65関連)については、第59号(2004.07)に、リモートシャックの構築は、第61号(2005.03)に2回目です、その他、第64号(2006.03)に「パソコンとインターネットでCW」と「クロスバンドコンタクトと簡易クロスレピーター」という記事、第66号(2006.12)は、「ゲートウエーの実験」、「D-STAR・DDモードでインターネット」、APRS関連の「Wの通販サイト利用初体験」は第69号(2007.12)で、第71号(2008.07)では、「ゲストオペとリモートシャックについて」で今回の記事とほぼ同内容の記事を書きましたし、第76号(2010.03)で再度、リモートシャックの記事「リモートシャック・PCリモート操作」等々を書いています、余り興味が無いのか拙い文章で読むのがいやなのか、余り読まれていないようです、何か新しいことがCQ誌やWEBで話題になると直ぐに何かと取り組んできましたし、その時の失敗談、苦労話を書いています、読まれていません、TWO-FORTY誌そのものに興味が無いのかも知れませんが、それが、ひいては寄稿者が少ない原因となっているのかとも思われます、WEB版になり、パスワード設定も解除しました、もっと読んでいただき、多数の局に寄稿してもらえ、ることを期待します、少子高齢化と共に、携帯電話やスマホの普及でアマチュア無線人口の減少が言われていますが、240グループも例に漏れずです、以前から度々言っていますが、かつては、多数の5/8λアンテナのモービル局が昼夜を問わず賑やかに運用していたが、現在は激減し、240グループの外部へのアピールには、「ロールコール」、「電波伝搬実験」、「TWO-FORTY誌」しかありません、どれも大切にして240グループを外部にアピールし継続発展につなげていきましょう。